

日・英対照言語学寸描

石黒 昭博

英語教育に携わっている者ならだれでも「比較言語学」と「対照言語学」の違いを知っているだろう。「比較言語学」では同じ語族に属する言語どうし(例えば、英語とドイツ語)を比べるのに対して、「対照言語学」では同じ語族に属さない言語どうし(例えば、英語と日本語)を比べることは衆知の事実である。双方ともに、2つあるいはそれ以上の言語を取り上げ、その構造の類似点、相違点を探り、比べるのであるが、前者はいわゆる純粋言語学(pure linguistics)の分野に属し、後者は応用言語学(applied linguistics)の分野に属する。英語教育に直接役だつのは主に対照言語学のほうである。対照言語学の諸分野の中で、特に英語教員の関心の深いのは「誤用分析(error analysis)」であろう。

日本語と英語を例にとれば、音韻論、統語、意味論の分野のものがよく取り上げられ、紹介されている。最近では語用論的ともいうべき、統語論と意味論にまたがったものもある。

例えば、

あなたは今何を勉強していますか。

という日本語を英語で表現すると、

What are you studying now?

であるが、この英語の動詞“study”は語用論的なくせ者である。“study”には「勉強する」と、「研究する」の2つの意味がおおまかに言っているところがある。日本語では「勉強する」、「研究する」は語法の違う2つの別の動詞である。さらに、同種の“learn”と「習う」を加えるとよけいに混迷する。

What are you studying now? の“study”と“learn”日本語の「勉強する」、「研究する」、「習う」は、

	English	Japanese
passive の意味	study	勉強する
active の意味	do research in	研究する
passive の意味	learn	習う

のようである。日・英双方の動詞ともに、なんらかの知的活動をすることは同じであるが、passiveの意味としては「何かの知識、情報を自己の中に取り入れる」であり、activeのほうは「真理の探究、またはその成果を発表する」というやや違ったニュアンスをもつ。

「勉強する」と“study”を対比してみると、それぞれの細かい違いは次のようになる。

Japanese	研究する	勉強する	習う
English	do research in	study	learn

この双方の動詞は異なった意味の広がりをもって、これは次の例文から明らかである。

(**☒** 範例中の *または *[?] はそれぞれ、*はまちがった用法、*[?] は native speaker でも個人的に疑問のあったものを指す。)

Japanese 英語を勉強する。

英語を研究する。

*日記を勉強する。

日記を研究する。

*日記を習う。

English I study English.

I do research in English.

I study (someone's) diary.

I do research in diary.

*I learn diary.

Japanese 英会話を勉強する。

*英会話を研究する。

英会話を習う。

English I study English conversation.

*I do research in English conversation.

I learn English conversation.

Japanese *自動車運転を勉強する。

*自動車運転を研究する。

自動車運転を習う。

つまり、英語の2つの動詞 study, learn と日本語の「勉強する」、「研究する」、「習う」は後続の目的語によって微妙に用法が異なるのだが、日本語を母語とする英語学習者、英語を母語とする日本語学習者ともに混乱を起こす原因になる。

次に構造意味論的に日・英語の collocation を比較してみよう。意味的には等価のものでその用法の異なるものをいくつか挙げる。

「高い」と“high”

Jap. 値が高い 高い地位 高い給料
Eng. (of) high price high position high wage

Jap. 波が高い 高い音 高い望み
Eng. high waves high sound high aim
ではほぼ両語は等価であるが

Eng. *a high building *a high person *a high pole

Jap. 高い建物 背の高い人 高い柱

では、英語のほうはそれぞれ a tall building, a tall person, a tall pole と言わねばならない。

“big”と“large”についても、

Jap. 大きな人

Eng. a big man

はいいが *a large man は不可で、

Jap. 小さな人

Eng. a small man

であるが、a little man と言ったら、体の大小ではなく、精神的なものを述べることとなる。

英語の*a tall tower は塔はもともと「高い」ものであるから、おかしいし、アメリカのハンバーガー店で飲み物を買うときに、

“A large coke, please.”

とは言いが、“A big coke, please.”とは言わない。wind については、

Eng. a strong wind *a weak wind

Jap. 強い風 弱い風

では、“a weak wind”はもともと「風」は、強い大気の流れを表すので、weak とは結び付かない。英語で a handsome girl は、変な表現であるが a handsome woman はふつうに使われる。

上に挙げた「形容詞＋名詞」の collocation では、日本語ではごくふつうのものが、英語では使えないものや、奇妙な表現で、日常語としてはおかしいものが多々ある。

単語のレベルでは、いわゆる Japanese English は枚挙するいとまがない。

*nighter → night game

*dead ball → a hit by pitch

*four ball → walk

*front glass → wind shield

*handle → steering wheel

このようにスポーツや運転関係のものに多く、この他にもまちがった語がまことに英語らしく使われている。

以上述べた種々の誤用は文のレベル、語法・用法上のもの、誤転用などで起こるが、世界の言語である英語ではこれから必ず避けねばならないものである。

10 数年ぶり、「英語学特論—日英語の対照研究」のクラスを担当し、学生たちのこの分野に対する興味が驚くほど強くなったことと、学習・研究のための専門書がたくさん出版されたことにおおいに頼もしさを感じた。私自身おおいに参照し、また対照言語学に興味をもたれた読者のために簡単にこの方面の良書を若干紹介しておく。

『日英語比較選書 全10巻』(研究社)

『日英語比較講座 全5巻』(大修館)

池上嘉彦『「する」と「なる」の言語学』(大修館)

牧野成一『くりかえしの文法』(大修館)

Jacek Fisiak, ed. *Contrastive Linguistics*. (Mouton)

Jacek Fisiak, ed. *Theoretical Issues in Contrastive Linguistics*. (John Benjamins)

石綿敏雄、高田誠『対照言語学』(おうふう)

(同志社大学教授)